





大学の教育研究等の質の向上に関する目標

第1 教育に関する目標

No

年度計画

計画の実施状況等

評価委員会において確認した事項、  
当 告 鵜 以 録 綜 灌 味 事 淫 U

爪猫 七学生にも好評であった。



進級後も後輩の指導に関わったり、学生サポーターとして地域の人々の健康増進活動に参加したりするなど学部の垣根のない交流活動につながっている。

・2年生のコミュニティ・ヘルスケア論 は、学内外から招いた多職種の医療人による講義で構成されており、各分野で活躍する医療職の現場の声が聴けるため、臨床現場における多職種間の問題点を理解することができた。

・コミュニティ・ヘルスケア実習 は訪問実習の成果及び多死社会の中で医療従事者としていかに生きるかについてグループディスカッションを行い、AIPの実現に向けての社会の課題に関する理解を深めることができた。



---

る必要がある。

- ・地域での学生・研修者の活動を支援する ICT 情報共有システムを活用しているが、利便性を高めるために更なる整備が必要である。

- ・文部科学省の助成終了後も事業継続するための対策が必要である。



名を超える参加者を得た。

・「公共政策学科」「マネジメントシステム学科」「会計ファイナンス学科」それぞれにおいて、平成 30 年度以降に向けての開講科目と科目配置の本格的な見直しを行う作業をスタートさせた。

・ESDの成果発信として「名古屋駅西におけるリノベーションまちづくりの可能性」～

	<p>現任教育については、アンケート結果から一定の評価が見られた。</p> <p>地域住民への健康支援活動については、アンケート結果から、受講者からの評価も良く、回数を増加してほしいなどの希望もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現任教育については、フォローアップ研修の内容について、まだ検討する余地がある。</li> <li>・共同研究については、1件しかなく希望者もいないため、平成29年度は看護学部教員に共同研究可能なテーマを募ることとした。</li> <li>・「名市大看護実践教育モデル」の活動も充実したモデルになったことから、名市大看護実践教育モデル検討委員会を改名し、平成29年度からは「名古屋市立大学看護実践教育共同センター」とすることとした。</li> </ul>	
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

18 大学院入学者に対して引き続きアンケート調査を行うとともに、平成30年度入試での実施に向けて、定員充足率向上のための方策を引

き続き検討 監 写 英 俣 俣 ソ 嘶 倉 設 邑 儗 卣 筍 吳 邑 繁 ぎ 続 ぎ 検 討 爾 続 ぎ 検 討 爾 g 紹 i 以 衮 禾 げ 辨 隣 子 K 2 ) M 衽 瀟 ) 卒 倉 彌 壺 因 ぎ 業 也

**【取組の成果、課題】**

・医学研究科修士課程の出願者数が10名から18名に増加し、入学者数が3名から14名に増加した。

・人間文化研究科博士前期課程の出願者数が26名から50名に増加し、入学者数が22名から24名に増加した。

・芸術工学研究科博士前期課程の出願者数が27名から32名に増加し、入学者数が19名から21名に増加した。

・看護学研究科やシステム自然科学研究科で前年度と比較して入学定員充足率が低下するなど、4月入学における大学院全体の入学定員充足率は平成27年度と比較して若干下がった。秋入学を引き続き実施するなど、入学定員充足率の向上に努める必要がある。





【取組の成果、課題】

・大学間交流協定校の増加と国際シンポジウムの開催により、新たな研究者の受入や派遣を通じたグローバル人材の育成の素地を築き、国際交流の充実化が促進できた。

・大学院教育におけるグローバルな感性を持つ人材育成をさらに継続するため、大学間交流協定校の油子系 麻校の油子 = 豈蹴麻井な厭勢 蠟子経 罪 ä 眞 廷締藤z駄 隼z鷹続謀坊によ定グ栗悞 〃 艶絨 《 井な托悌刑/な穉げ嬢 溲学

---

導していく必要がある。



- 
- ・博士後期課程における早期修了プログラムについて、各教員に入学可能性のある方々への受験の勧誘をお願いした。平成 29 年度は入学者を 1 名迎え入れることになった。
  - ・「経営管理」、「特別講義（経営学）」、「地方行財政」などの講義を通じて実務経験者や企業人による実務教育を継続した。なおそれぞれの受講者数は 9 名、7 名、2 名であった。









授業の設定日時や実施科目等の更なる検討が必要である。







## 第1 教育に関する特記事項

法人として特色ある取り組み

(1) 初年次教育科目の開講







		<p>定した。 ・これまでの名古屋市博物館との連携を継続すると共に、より発展させることができた。</p>	
--	--	----------------------------------------------------------	--

53 (芸術工学研究科)  
 産業界との受託・共同研究、名古屋市をはじめとした地方自治体との共同研究、あるいはブレーンとしての貢献及び国際学会、国際コンペでの発表を推進する。  
 【中期計嫁襖族筍稽♀@豨産4リ ャ シ ♪化 弓産0リ 矢界と 鯨じ9ウ 梟境橋霧 8 蹊一鱗一雨 麼 讚 嵩聚 愛 曷 毘-氏 鯨發虫【中期計ね授T贊 艾文K燿





## 第2 研究に関する特記事項

### 法人として特色ある取り組み

#### (1) 全学研究施設運営会議の設置

研究施設・設備の全学での共同利用の企画・運営を図ることを目的に「全学研究施設運営会議」を設置し、研究設備・機器の共用化の基本方針の取りまとめや平成 29 年度に共用機器センターを設置するために計 4 回会議を開催した。

#### (2) 先端研究基盤共用促進事業への申請・採択

文部科学省の先端研究基盤共用促進事業（新たな共用システム逃瀬



評価委員会から指摘された事項

なし

第3 社会貢献等に関する目標

No	年度計画	計画の実施状況等	達成状況
----	------	----------	------



ターの活動の認知度を高めることができる。

### 第3 社会貢献等に関する特記事項

#### 法人として特色ある取り組み

(1) 名古屋市との連携の推進 資料提出（参考資料集 94 頁、95 頁）























		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年度、削減される人件費の範囲内で、教育研究の支援体制を整備するとともに、有効な人材配置や職員体制を常に検討していく必要がある。</li> <li>・削減計画を着実に実施した。</li> </ul>		
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

93 引き続き、社会的ニーズに的確に対応し、有用な人材を確保するため、多様な雇用制度を整備、活用する

【取組実績】

引き続き、在職4年以上の専務系初任職員に対し、無期雇用転換試験を実施し、4名を

な人材確保を進めるため、採用予定日を10月1日以降又は4月1日とする弾力的な採用を行った。





財務内容の改善に関する目標

年度計画

計画の実施状況等

達成状況

評価委員会において確認した事項、

No





込むなどの取り組みを行った。

**財務内容の改善に関する特記事項**

法人として特色ある取り組み



の公開を開始する。

【中期計画 第2 3】

著作権等問題がないものについてすべて公開した。

・3月末日現在で研究紀要論文1,156件、学位論文315件、研究紀要論文以外の学術論文である22世紀研究所評論集収録論文(学術論文)13件を公開した。平成28年4月以降のリポジトリからの論文のダウンロード数は178,981件であった。

・学術論文の公開の準備として、文化庁の著作権研修会に職員を派遣した。(平成29年1月)

#### 自己点検・評価、情報の提供等に関する特記事項

##### 法人として特色ある取り組み

###### (1) 認証評価の受審

学校教育法の規定に基づく認証評価を受審し、認証評価機関である公益財団法人大学基準協会から「本協会の大学基準に適合していると認定する。」(認定期間:2024(平成36)年3月31日まで)と評価された。

##### 未達成の事項

なし

##### 評価委員会から指摘された事項

なし

#### その他の業務運営に関する重要目標





の確保等について、次年度も引き続き検討を行うこととなった。

**【取組の成果、課題】**

- ・本部棟の防災訓練で、各所属連絡員による本部長（理事長）への情報伝達を初めて実施したことにより、有事の際の情報伝達方法を広く浸透することができた。
- ・本部棟の防災訓練で、新たに防災備蓄品についての説明を行った。災害時に必要とな







公立大学法人名古屋市立大学の業務運営等に関する規則で定める事項

1 施設・設備に関する計画

中期計画

年度計画

実績

2 積立金の使途

平成 28 年 5 月 1 日現在

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員 人	収容数 人	定員充足率 ( / )%	定員充足率 学部の学科、研究科の専攻等名
----------------	-----------	----------	-----------------	-------------------------